

ODA しやりん

第 176 号

2026 発
2月行

会員投稿

「私の褥瘡体験記!」大城 昌彦さん

2p-3p

第2回せき損セミナー in OKINAWA」開催報告

4p

大濱眞代表理事追悼コメント

5p

活動アラカルト ピアサポート説明の病院巡回活動

6p

車いすクツシヨンの選び方講習会と新年交流会

6p

脊損関連ニュース

車いす女性、初の宇宙飛行

山下氏頸髄損傷「ありのままの姿を」

第44回大分国際車いすマラソンに参加しました。

10年間お世話になりました。

7p

沖脊協顧問の高嶺豊さんにJICA国際協力賞!

8p

8p

NPO法人 沖縄県脊髄損傷者協会 TEL.098-961-6715/FAX.098-961-6716
 〒901-2121 沖縄県浦添市内間5丁目4番3号 ハウジングシーサー101号
 E-mail office@okisekikyo.com
 ホームページ http://okisekikyo.com/
 facebook http://www.facebook.com/okisekikyo Skype ID:okisekikyo

会員投稿

おおしろ まさひこ
大城 昌彦
自己紹介とせき損歴

私は宜野湾市に在住する64歳男性です。脊損歴は40年、昭和60年2月、友人の運転する車の後部座席に横になった状態でタクシーと衝突、そのまま南部徳洲会病院に搬送され頸髄C7損傷との診断。

1年3カ月の入院生活ののちに退院、その頃は県内の病院では全体的にリハビリの環境やスタッフ共に充実しているとはいえ悶々と入院生活を送ってきた気がします。

退院後は在宅で過ごし一年半後ぐらいから当時の沖縄脊髄損傷者連合会に入会し役員としても活動を始めました。



はじめての褥瘡

はじめて褥瘡を作ったのは事故当時の入院中でした。幸いにも傷は小さかったので退院までには完治していました。退院後は在宅で車いすに座る時間も長くなり、自動車への乗り移りでの擦り傷から褥瘡になり手術が必要になったのは事故から3年目ぐらいでした。当時は形成外科という新しい分野の専門外来ができたばかりで初めて皮弁形成術というものを受け約2カ月弱で退院することができました。



当時の車いす用の座クッションはまだウレタンマットが主流で体圧が分散されにくいことと失禁などで不潔になり、しょっちゅう傷を作っていた気がします。その後に出たROHOクッショ

私の褥瘡体験記!



ンは自分にとっては驚くほど役立つ現在も愛用しています。たまにパンクするのは難点ですが・・・。

現在はROHOだけでなく色々なクッションが出ていますね。皆さんも自分に合ったクッションをぜひ探してみてください

私の褥瘡の手術歴

私は色々な術式での手術を受けてきました。その一つに皮弁形成術、その他に無水エタノールによる硬化療法、VAC療法(陰圧閉鎖療法)、皮弁形成術は今まで5回受け太もものうしろからお尻の形も大分変形してパツと見は桃のような?形とはかけ離れ、どこが肛門かもわかりにくくなっています。(笑)

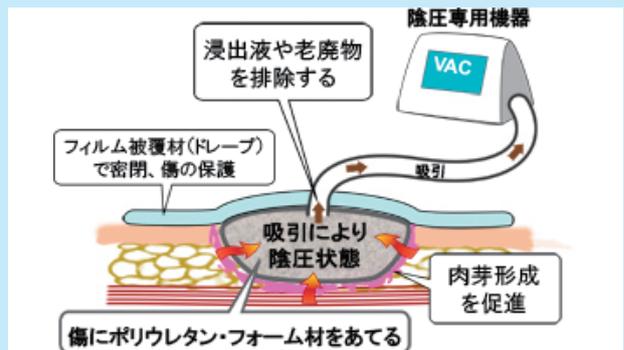
現在と昔の褥瘡に対する考え方の違い

昔は傷を乾燥させて治す乾燥療法から現在では湿潤療法と言ってまったく逆の治療法になってます。

消毒という考え方もしかりですね。更に昔をさかのぼるとまだまだ色々な治療がなされていたらしいです。医療用ウジ虫を用いたマゴットセラピーという治療法、シュガー(砂糖)を用いた治療法、県外の専門病院などでは裸でうつ伏せになり天日にあたることなどなど・・・。

褥瘡治療における入院歴

私の脊損歴で褥瘡による入院はほとんどが手術を伴い、計算すると軽く3年以上です。手術の回数は小さいの合わすと10回を超えます。入院が長くなればなるほど体力や筋力が衰え、術後の安静でベッド上が長ければ長いほど手足の関節も硬くなり、可動範囲を元に戻すのは容易ではありません。



からだの痛み・悩みを
自宅で解消!



代表 林 秀一
TEL: 098-867-0006
FAX: 098-867-0008
〒900-0004
那覇市銘苅2-11-19
グローヴィーサイト新都心2F

琉球治療院

リハビリ・はり・きゅう・マッサージ

年中無休 9:00~18:00

沖縄県内全域で出張施術します。



0120-680-006

フリーダイヤル
mail info@ryukyu-chiryoin.com H P http://www.ryukyu-chiryoin.com/

また、今までスムーズにできていたはずの車いす〜ベッド間のトランスファーも感覚を忘れ難くなる場合もあります。途方に暮れ精神的にもかなりのダメージを受けます。もちろん家族の負担も図りしれないと思います。病院への面会、洗濯ものの回収、何より一人で家にいる不安、家を守らないといけないという負担は大きかったはずで。日ごろの目には見えないさりげない支えに感謝ですね。

保険適用外の消耗品の数々

最新の褥瘡治療に欠かせないのが保険適用外の消耗品、メロリンガーゼやヒドロシエントルエイド。特に



後者は会員 LINE グループにも投稿があったように数名の方に良い結果が出ているようです。

それでも個々で傷の具合に違いがあるので自分には良い変化をもたらしてはくれませんでした。それに金銭的な負担も大です。

亜鉛と褥瘡の関係

昨年9月ごろ傷ももう少しというところでなかなか完治してくれず。試行錯誤している中ふと亜鉛について調べてみました。段々と気になり始めドクターに相談し血液検査をしてもらうことにしました。

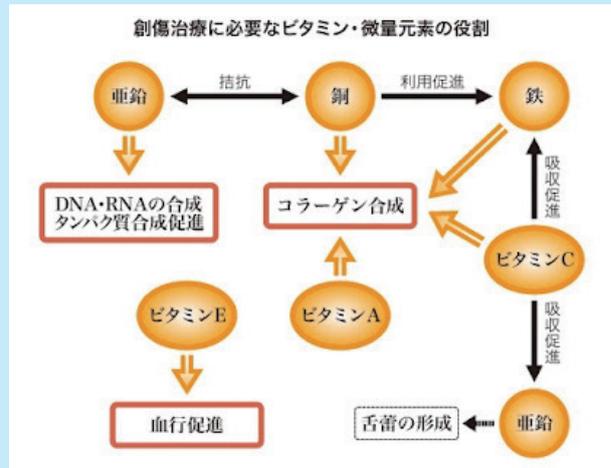
亜鉛値の基準は80〜130μg/dLで、60〜80μg/dL未満を潜在性亜鉛欠乏、60μg/dL未満を亜鉛欠乏症と定義されているようです。

私の場合は検査の結果、昨年の9月時点で60μgしかなく亜鉛の投薬を始めました。その2か月後に65μg、あまり変化が見られず薬をより強いものに変更してもらいました。

そんな中、なかなか完治まで至らなかった残りの小さな傷に少しずつ変化が見られ、現在では何とかカーゼも軟膏も不要になるほどに至っています。

亜鉛を食べ物から自然に摂取するのは容易ではありません。皆さんも検診等で血液検査を行う場合はドクター

に亜鉛値の項目も入れてもらうようお願いし数値を把握することは大事だし褥瘡予防に必要だと思います。ぜひ自分の数値を把握してください。



年齢とともに劣化する皮膚

若いときは褥瘡を作って手術をしても2ヵ月ほど入院すると完全に治って退院してました。退院の翌日には仕事にも復帰できるぐらい傷も完璧に閉じていました。しかしながら年齢とともに皮膚も衰え約3年半前は1年間に2回の入院、2回の手術をうけ、傷が完全に閉じ切っていない状態で退院して在宅療養に切り替えました。

この年は半年以上ずっと入院でベッド上安静、体力も筋力も限界でトランスファーも一人では難しい状態でした。当然ながら仕事にも復帰を果たせず約一年以上の在宅療養に入りました。

その時から中々完治に至らなかった傷が亜鉛の投薬治療を経て段々と良くなっています。今も多少の不安はありますが完治が見込まれ一安心、これからの人生楽しく過ごそうと思います。Let' senjoy oyr life togeteir! (共に人生を楽しもう！)

以上、報告終わります。大城昌彦

交通事故の法律相談

人身事故被害に関する法律相談は、
おもろまち法律事務所へ

那覇市おもろまち4-17-25T&C新都心ヒルズ804号室
弁護士 坂井大高(沖縄弁護士会所属)

【完全予約制】 ☎(098) 963-6268

※ご予約の際「しゃりん」を見たとお伝えください。



◆人身事故被害の【無料】法律相談を実施しています。移動が困難な方には、出張相談や電話相談のご利用が可能な場合もありますので、お問い合わせください。
相談例：後遺障害等級、賠償金額の増額交渉、休業損害、慰謝料、労働能力喪失率、治療の打ち切り、自宅改造費用など

第2回 せき脊セミナー in OKINAWA



2023年5月に引き続き「第2回せき脊セミナー inOKINAWA」を11月30日(日)ラグナガーデンホテルで開催しました。

テーマを「脊椎損傷をつくらない、あきらめない～沖縄の脊椎外科とリハビリの進歩、そして最先端の再生医療まで～とし、

講演1で「沖縄の脊椎外科の現状と課題」琉球大学医学部教授の西田康太郎先生からは沖縄の脊椎外科の推移とともに「沖縄の脊椎損傷実態調査」を琉大医学部の症例実績を基に発表でした。沖縄の脊椎疾患の状況報告でした。有意義な内容でしたので、次回以降でしゅりん会報に掲載したいと思いました。

講演2で 医療法人ちゅうざん会ちゅうざん病院院長の田島文博先生。長年県立和歌山医大で取り組まれている脊椎損傷者スポーツ推進やちゅうざん病院での早い時期からの運動リハビリのチャレンジ例など沖縄の脊椎治療に画期的に生かされるように思い期待するものでした。

講演3で「iPS細胞を用いた脊椎再生医療の現状と展望」慶應義塾大学医学部教授の中村雅也先生。脊椎損傷のiPS再生医療の今と将来像のお話でした。急性期だけではなく慢性期にも果敢に熱意をもってチャレンジされていることが強く響きました。

近い将来に期待する内容でした。

パネルディスカッションでも参加者の質問に答える内容で多くの質疑応答がありました。

参加者は医師はじめPT、OT、看護師の医療関係者、脊損当事者、ご家族の方々に約90名ほどの参加者で盛況でした。

沖縄でこのようなセミナーを開催いただいた日本せきずい基金の大濱理事長はじめスタッフの皆様には厚く感謝申し上げます。



【訃報】大濱 眞 代表理事 ご逝去のお知らせ

公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会代表理事

特定非営利活動法人 日本せきずい基金理事長を務めておられました、大濱 眞（おおはま・まこと）が、12月27日に逝去されました。享年80歳でした。

突然の訃報に、深い悲しみと驚きを禁じ得ません。

沖縄の関係者から突然で驚きと悲しみのご連絡をいただいております。ここに沖縄関係者の追悼のコメントを掲載させていただきます。

大濱 眞さんを偲ぶ

琉球大学整形外科 教授 西田 康太郎

突然の訃報に接し、驚きと深い悲しみに包まれています。ご自身も大変なご苦勞を抱えながら、国内外を精力的に飛び回っておられた、まさにスーパーマンのような方でした。着任まもない頃、琉球大学病院までわざわざお越しくださり、沖縄の脊髄損傷患者さんへの思いを熱く語ってくださったことが、今も心に残っています。ご尽力により、「Walk Again 2021 in 沖縄」、そして昨年11月には「せき損セミナー in OKINAWA」を開催することができました。心より感謝申し上げます。どうぞ安らかにお休みください。

追悼の辞

ちゅうざん病院 院長 田島 文博

大濱眞様の訃報に接し、誠に残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

先日、わざわざ沖縄までお越しの上、再生医療に関するシンポジウムを主催していただきました。その際、頸髄・脊髄損傷者の再生医療のみならず、急性期リハビリテーション治療、さらには生涯にわたる健康管理システムの構築についてご指導を仰いだことが、結果として最後となってしまいました。

大濱代表理事を偲んで

(N) 沖縄県脊髄損傷者協会

理事長 上里 一之

昨年末、自宅で過ごしていられ「大濱さんが急逝された」との訃報が届いた。実はちょうど1カ月前に、最新の再生医療研究の取り組みなどを紹介する「せき損セミナー in OKINAWA」を沖縄で協力・開催し、お会いしていたばかりなので信じられずにいます。自分と同じ障害レベルにも関わらず、行動力とリーダーシップ、誰にも笑顔で話しかけてくれる姿を尊敬すると共に、感謝の気持ちを届けたいと思います。ありがとうございました。

追悼の意

全国頸髄損傷者連絡会

事務局長 宮野 秀樹

大濱眞様のご逝去に、心より哀悼の意を表します。

大濱さんとの出会いは25年以上前、同じ第4番頸髄損傷の当事者として、誰よりもアクティブに活動される姿が強く印象に残っています。「自分もこんなふうに動けるだろうか」と思わせてくれる存在でした。近年お会いするたびに掛けてくださった「遊んでるなあ」という言葉。その何気ない声が、もう聞けないと思うと寂しさが募ります。仲間のため、人のために尽くされた歩みは、これからも私たちの中に生き続けます。

ちはる歯科クリニック

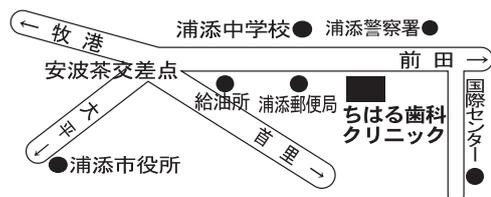
CHIHARU DENTAL CLINIC

浦添市仲間3-3-9

☎(098) 877-6480

FAX (098) 877-9251

E-mail chiharu@ryukyu.ne.jp



訪問歯科診療と口腔ケアを行なっています!

対象者: 在宅療養をしている個人で、通院が不可能な方。
病院、保険施設等に入所(院)されている方、障害者施設に入所の方。

活動アラカルト



ピアサポートの病院巡回説明活動

ピアサポート活動では病院連携が重要ですが、コロナ禍によって連携・連絡が途絶え、その間には病院スタッフも入れ替えがあるなど、関係の気薄化となっています。

そこで、改めて脊損ピアサポートの取り組み説明を救急及び回復期(リハビリ)病院を巡回しています。



訪問するにあたりパンフレット及びピアサポートポスターを新たに作成し訪問時にお渡ししました。

現時点で下記の6か所訪問済み。

11/6 沖縄県立南部医療センター、那覇市立病院

11/11 南部徳州会病院、11/14 大浜第1病院、琉球大学附属病院、11/17 沖縄リハビリテーションセンター病院



訪問対応は主に医療ソーシャルワーカーでしたが、中にはPT、OTも同席していただいたところもありました。今回はDrには会えませんでした引き続き訪問活動を進めたいと思います。

会員の皆様で“この病院は訪問してほしい”との声があれば動きます。ご連絡ください。



賢い車椅子クッションの選び方講習会&新年交流会

1/24(土) 沖縄県総合福祉センター研修室で30名の参加で開催しました。

会員からの“褥瘡”の声が多くなっていることから企画いたしました。四輪舎具志堅さん(会員)のお力添えもあり、クッションや電動車いす等の北欧メーカーペルモービル(株)の山崎雄士様、流俊介様のお二人。そして、群馬県副支部長でもあるROAD-STAR-JAPAN代表の細野直久様に講師になっていただき各40分説明と質疑応答、試乗含めた体験など17時30分まで内容の濃いプログラムとなりました。



特に褥瘡に困っている参加者からは熱心に空気圧のことや初めて見るVICAIRクッションは特に関心が高く購入希望者が多くいました。



講習会の質疑応答や体験の中でしたが、新年交流会に入り「ステーキ弁当」「すき焼きべんとう」で懇親することができましたが、ビンゴゲームでの賞品プレゼント予定がなんとビンゴゲームソフトが映写することができなくて、代わりに“ジャンケン大会”となり商品(ホテルディナーペア券、食事券など)をゲットしていただきました。

参加された会員、ご家族の皆様、ボランティアの皆様ありがとうございました。



脊損関連NEWS

車いす女性、初の宇宙飛行10分間、欧州技術者

ワシントン共同

米宇宙企業ブルーオリジンは20日、脊髄損傷を負い車いすを利用している欧州宇宙機関(ESA)の技術者ミカエラ・ベントハウスさんら6人を乗せた宇宙船「ニューシェパード」を南部テキサス州の施設から打ち上げた。宇宙船は約10分間飛行した後、無事に地球に帰還した。車いす利用者の宇宙飛行は世界初という。



宇宙船は地球の大気圏と宇宙空間の境界とされる高度100キロを超えて飛行。無重力状態を短時間体験したとみられる。帰還後、ベントハウスさんは「これまでで最高の経験だった」と感極まった様子だった。

柔道・山下氏「ありのままの姿を」長期療養から復帰し会見

琉球新報2025年10月5日



2年前に負った頸髄損傷による長期療養から先月に社会復帰し、母校の東海大で講義を行っている五輪柔道金メダリストの山下泰裕氏(68)が18日、神奈川

県平塚市のキャンパスで記者会見に臨み「ありのままの姿をさらけ出し、障害者を身近に感じてもらえたい。これからは自分のできる活動をしていこうと考えている」と語った。

車いすに座っての会見で「一歩手前で生き残った。そこに何かの意味がある。果たすべきことは何か。生かされているという気持ちがかかなり強い」と力説した。

それでも救われた命に報いるために、あえて不自由な姿で人前に出ることを決意。「かすれる声で息は絶え絶え。鼻水も流れる。それでも後悔はない」と述べた。今後は障害者スポーツの普及にも意欲を示した。

会員の宮野秀樹さんが電動車いすで世界一周を2か月かけて仲間と共に成し遂げました。様々なトラブルがありながらの夢をかなえた旅を放送されています。YouTubeにもアップされているので是非ご覧ください。

第44回大分国際車いすマラソンに参加しました。

タートルズメンバーが毎年恒例「第44回大分国際車いすマラソン大会」に令和7年11月16日(日)大分市において開催され、14か国から177人が出場し、タートルズメンバーは、フル1人、ハーフに9人が出場し6人が完走しました。メンバーの感想等以下掲載します。T52招待選手の上与那原さん)はフルマラソンに出場、2年ぶり5度目の優勝を飾った。目標タイム(1時間40分台)には、届かなかったが、「自分のペースを崩さず粘ることが出来た」「来年は少しでもタイムを締められよう調整したい」と先を見据えた。大分県には、飛行機、地下鉄、特急電車を乗り継いで移動になります。重度の障がいを抱え脊損、頸損で一部介助を必要とする選手のサポートで今大会も3名介助者にご協力を頂いた。飛行機内の座席移乗、入浴介助、電車移動中の介助やレーサー梱包等々、介助者やご家族の協力に改めて感謝いたします。

車いす陸上クラブ「タートルズ」報告



民間車検場(沖指第590号)/(株)ミクニライフ&オート総合代理店

ニッシン自動車工業沖縄

身体障がい者用自動車運転装置・福祉車両製作・販売・レンタカー・車検・一般修理・板金塗装

TEL: (098) 958-6556
FAX: (098) 958-6522

〒904-0302 沖縄県中頭郡読谷村喜名219
E-mail: info@nissin-okinawa.info

代表 山城 貞二

新年のご挨拶

NPO 法人 沖縄県脊髄損傷者協会
理事長 上里一之

沖縄協会員の皆さん、ご家族の皆さん、明けましておめでとうございます。

昨年の活動を振り返ると、創立40周年記念式典&新年会を賑やかな雰囲気の下、開催することが出来ました。日頃お世話になっている県の担当部局や沖縄県身体障害者福祉協会、機関誌しゃりん継続して広告掲載していただいている企業の皆さんや寄付や活動を支えていただいている方がたへ感謝の気持ちを伝えることが出来ました。

また福祉サービス就労継続支援事業の運営や県の委託事業である沖縄県障がい者ITサポートセンターの運営など、担当する管理者や職員、サービス利用者やご家族の皆様、活動を支えて頂く多くのボランティアの皆さんへ、会を表し深く感謝申し上げます。

会員の高齢化やそれに付随する65歳問題、車いすユーザーには避けることが出来ない床ずれや排泄管理など、取り組む課題は山積ですが、会の設立から取り組むピアサポート活動を基本に役員や多くの会員やサポーターの皆さんの協力を得ながらこの1年間頑張ってきたと思えます。

最後に、昨年末に届きました、全脊連並びに日本せきざい基金の理事長を長年にわたり務められていた大濱真さんの急逝の報せに、ただただ驚くばかりで今でも信じられませんが、ご冥福をお祈りすると共にこれからは私たちの活動を天国から見守りください。合掌

沖脊協顧問の高嶺豊さんにJICA国際協力賞！

国際協力機構（JICA）は、1月21日に開発途上国の社会と経済の発展に貢献した個人・団体を表彰する「第2回 JICA 国際協力賞」の授賞式を開き、本会顧問の高嶺豊さん（エンパワメント沖縄理事長）を選び都内で表彰した。

元琉球大学教授の高嶺豊さんは、途上国の開発に取り組むKUCAの研修プログラムで、あらゆる施策に障がい者の視点を反映させたなどと評価された。

高嶺さんは、1965年に脊髄損傷して下半身まひになり、車いすを使うようになった。授賞式では、国内の大学に受け入れられなかったため、米ハワイ大で学び、タイ・バンコクにある国連機関で働いた経験などを国際協力の支援につなげた半生を語った。「70代後半になったが、まだしばらく頑張りたい」と障がい者の社会支援に意欲をみせた。

1/22沖縄タイムス記事



10年間お世話になりました。

平成27年10月に就労継続支援A型事業所を開所して以来、制度改定に伴う「質の向上」や「メリハリづけ」への対応、不適切運営増加に伴う県の指導強化など、さまざまな課題に向き合ってきました。営業収益のみで職員給与を賄う難しさが顕在化する中、令和2年にはB型事業所を開所し、支援の質保証、実績評価、ICT活用強化など多岐にあたる要件に取り組んでまいりました。しかし令和6年度以降、就労選択支援との連動強化や成果指標の重視によりA型運営の難度は一層高まり、令和7年度通常総会にてA型休止を決議いたしました。職員の異動調整と並行し、B型定員を20名から30名へ拡大し、新体制を整えました。令和8年3月末にA型休止申請を行う予定です。10年間のご支援に深く感謝申し上げます。

編集後記

12/27全国脊髄損傷者連合会の大濱代表理事がご逝去されました。つい先月には沖縄で「せき損再生医療セミナー」を開催していただき沖縄のせき損再生医療振興に尽力いただいた矢先のことで、あまりにも突然の訃報に接し、大きな衝撃を受けております。

毎年のように沖縄に来ていただいて、沖縄大好き人間でした。政界、行政との強いネットワーク力を発揮されて、脊損、障害者制度向上に多大な功績を残されました。謹んで哀悼の意を表するとともに、大濱代表理事のご冥福を心よりお祈り申し上げます。（建作）

